

ひらくびつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '83 4月号

教育普及活動の紹介 (12)

拓本墨を作ろう

3月の27日(日)に、明石学芸員の指導で、「拓本墨を作ろう」の体験学習会が開かれました。主婦や若いママさん、学生などが10名ばかり集って、真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。



拓本というのは、石碑や器物に刻された文字や文様を紙にうつしとったもので、その方法に湿拓(しつたく)と乾拓(かんたく)とあります。湿拓は、画せん紙などを、被写物の上にあて、湿った布で紙を密着させ、タンボに油墨をつけ軽く上からたたき、墨をつけるもので、この日は、湿拓による拓本作りが行われていました。

拓本作りの記事は、すでに日本書紀の中に見られ、本格的には江戸時代より普及したと言われています。

当日、この体験学習会に参加した人の中には、余暇を利用して教養を身につける人の他に、「ウチの石碑で判らないものがあるから、やり方を教えて、拓本を作ってみたい……(拓本にするとよく解説出来ると聞いたので……)」と言っている人などもおりました。

参加者は、まず油と松煙を使って油墨を作り、続いてタンボを作りました。この油墨とタンボを使って、市内の阿弥陀寺(アミダバタ)遺跡から出土した貞和年代(南北朝時代)の板碑を素材に拓本を作り、縄文土器の文様をきれいに写し出す作業などもくりひろげてありました。

自らの手で作業が進められ、体験学習が深まるにつれ、「郊外にトコトコ出掛けたいって、石造仏や記念碑などの拓本を作りたいですね」という声や、「このような学習会を5、6回のシリーズでやってもらって、だんだん高度な技術を身につけたいですね……」などと言う要望も聞かれました。

博物館では、このような体験学習会を毎月1回開催しています。今年は、「草木遊び」、「麦から細工」、「土器づくり」、「画集を作ろう」、「紙すき」、「巣箱づくり」、「おかざりづくり」……などを順次行って行く予定です。



写真
左上..油墨づくり
真中..タンボづくり
右下..拓本づくり

4月の行事

5月の行事

あなたも参加してみませんか

1	金	(休館日・市制記念日)
2	土	プラネタリウム
3	日	プラネタリウム
4	月	(休館日)
5	火	
6	水	
7	木	
8	金	
9	土	土曜観察会「高麗山の季節ごよみ」
10	日	「みんなで調べよう・平塚のタンボボ」打ち合わせ会
11	月	(休館日)
12	火	「みんなで調べよう・平塚のタンボボ」打ち合わせ会
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	プラネタリウム
17	日	プラネタリウム 体験学習会「草木で遊ぼう」
18	月	(休館日)
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	プラネタリウム 土曜観察会「高麗山の季節ごよみ」
24	日	プラネタリウム 地層観察会「ルートマップを作ろう」
25	月	(休館日)
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	(休館日・天皇誕生日)
30	土	(月末休館日)

* 4月のプラネタリウムは、「静止衛生」をテーマに投影します。

●自然観察会

春の渡り鳥でにぎわう相模川河口をたずね、野鳥・海岸植物・海辺の石や砂などについて観察します。

日時 5月8日(日) 9時~16時
(雨天中止)

場所 相模川河口の干潟

申し込み 往復ハガキで、4月25日までに博物館までお申し込み下さい。申し込み多数の場合は、抽選で30名まで。

●星を見る会「土星を見よう」

土星は、輪をもつ惑星であることが、ガリレオの時代から知られています。その姿を、望遠鏡を使って観察します。

日時 5月27日(金) 16時~20時

場所 博物館・科学教室

参加自由。当日、科学教室にお集り下さい。

●地層観察会・会員募集中

博物館では、昨年度に引き続き、地層、岩石、化石、地形を対象とした地層観察会を実施します。会員制として募集しますので、参加御希望の方は、博物館までハガキでお申し込み下さい。

実施期間 4月~来年3月まで(毎月1回・日曜日)。(時間は毎回9時30分~16時)

対象 中学生以上

●ツバメの巣について情報を求めています!

博物館では、1980年~82年にわたって、市内に作られたツバメの巣の分布を調べてきましたが、今年度は、それをさらにくわしく調べるため、市民の皆様の御協力をお願いしたいと思います。今年、ツバメが出入りしている巣の所在を御存知の方は、下記の点を書いて、ハガキでお知らせ下さい。

①巣のある場所(なるべくくわしく。たとえば「中原3丁目--〇〇商店の軒」)
 ②気がついた月日
 ③巣のようす(親鳥が入りしていた、ひながいたなど)
 ④報告者の住所、氏名、電話番号(御協力いただいた方には、ツバメの分布をまとめたプリントをお送りします。)



⑨

冬の去る前に

3月17日(木) 雨後曇り

季節の変わり目がくると、いつも落ち着かなくなる。そのシーズンに何かやり残したことはないかと気になるからである。生き物を相手の仕事は、いったん時を逃すと一年間待たねばならないことも少なくない。

毎月2回、土曜観察会という行事を行っている。昨年度の1年間は、高麗山と湘南平をフィールドに毎回観察をし、木と草の花ごよみの記録、カラスのねぐらの個体数調査、登山道沿いの樹木の分布調査などに取り組んできた。こうした観察記録をもとに、参加者でアイデアを出し合い、高麗山周辺の自然観察のガイドブックを作ろうというのが私の構想で、今年度中にはその夢が実現しそうな見込みになってきた。

ガイドブックをまとめるにはいろいろな写真がある。冬の生物の写真をとるラストチャンスとして、雨上がりの高麗山へ出かけてみることにした。主な目標は樹木の冬芽と、落葉樹の樹形をフィルムにおさめることである。

高麗神社の裏から八ヶ岳山へ登る道を歩き出すと、すぐ右手にヤマグワの木がある。さっそく、カメラを枝先の芽に向けて、ファインダーをのぞくと、茶色い鱗片の先端に、ほんの少しだが緑がのぞいている。芽はもうふくらみ出して、3日もすれば新しい芽がこぼれ出してくるようなようすなのだ。道沿いに何本も生えているコクサギは、もうすっかり緑の葉が展開していた。開きたてのつやつやした葉は独特の香気をあたりにまきちらしている。

冬芽の写真をとるには、時期が遅すぎたかと心配になったが、芽の開き方は木の種類によってもずいぶん違っている。モクレインの赤ん坊の爪ほどの小さな芽は、まだまったく冬のままだ。タブノキやシロダモの大きな芽も、多少ふくらんでき

たかなと思う程度で、十分、写真をとることができた。

傾向としては、落葉樹の方が冬芽が開くのが早く、常緑樹は遅い。冬の間、葉を落としている落葉樹は、気候条件さえ整えば、一日も早く葉を広げたいのに對し、今でも葉をついている常緑樹は何もあわてて新しい葉を広げる必要はない。それが自然の理屈というものだ。

風が強くなってきて、木々の梢をゆらし、雨のしづくがぱらぱらと下に落ちてくる。足もとのムラサキケマンの葉を見ると、細かくわかれた葉の上にたくさんの水玉がのっていた。はじめは雨の水滴が残っているのだと思ったが、よく見ると、葉のへりからしみ出すようにして、小さな水玉が生まれている。根から吸い上げられた水が、ふだんなら水蒸気になって空気中へ逃げていくのに、湿度が高いので水玉になって葉につく、出水(しゅっすい)と呼ばれる現象らしかった。

浅間山では、ミズキ、クヌギ、ハリギリなどの樹形の写真をとった。

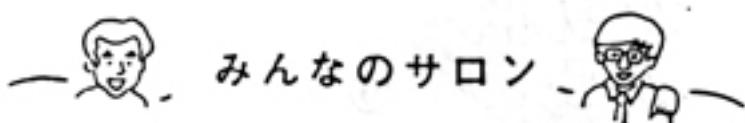
樹形には、案外、その種類の特徴がよく出るもので、垂直に立った幹の何カ所かから四方八方に水平の枝をのばすミズキなどは、一目で種類をあてられるほどである。しかし、いざ写真をとろうとすると条件が難しい。ある程度孤立していて、背景を空にでき、しかも全体を画面に入れられるような撮影場所がある、これだけの条件を満たす木は数本しか見つからなかった。

10日後にはまた土曜観察会がある。植物のようすはどんなに変わっているだろうか。あつという間に入れ替わっていく冬と春である。

(浜口学芸員)

(今回のカットは土曜観察会参加者のスケッチです。)





4月の太陽

春本番となり、おだやかな気候に身も心もうきうきしてきます。太陽は輝きを増し、水面や若葉をきらきらとさせています。

太陽は4月になると、日の出、日の入りの位置が真東、真西より北に偏り、高さも増してきています。星座も、うお座からおひつじ座に移り、北半球の空に入ってきました。ここで言う北半球というのは、地球の赤道を天に伸ばした、天の赤道よりも北の空、という意味です。

4月になって太陽は、上旬で日の出が5時20分、南中高度が60度、日の入りが18時となり、下旬には日の出が4時50分、南中高度が70度近く、日の入りは18時20分、と大きく変わってゆきます。これらの時刻や高度は、ちょうど8月上旬から9月上旬にかけての時期とはほぼ同じです。夜明けも日に日に早くなり、春眠、暁をおぼえず、とは無理からぬこと、とも思えます。また、日中の日ざしもかなり強く、海辺の散歩や花見の時は、思わぬ日焼けをしたりもします。

ところで、太陽がちょうど真南にやってくる時の高さを南中高度と言い、1日で一番高い太陽となります。この時の時刻は12時と思いがちですが日本中で使っている時間(日本標準時)は、兵庫県の明石市を通る東経135度の子午線を基準にしているため、平塚では12時の少しまえです。その差は4月で、ほぼ17分ほどです。日時計などを使うと意外なほどズレているのがわかります。

匿名希望 Hu-Basic

小学校の頃、私はよくプラネットリムを観に行ったります。気のよさそうなお兄さんがドームの中にいて、お山これと説明してくれました。そして、大きくなったらみんなの百歳に就きたいと思ったりしました。小学校を卒業すると間もなく、観に行くこともなくなりました。

数年が経ち、私は市の高校の2年生となりました。先日、久々にプラネットリムを観に行きました。するとあのお兄さんがまだ元気にいらっしゃるではありませんか! 優かしい思いで一杯でいた。同時に、小学生の頃、ドーム内に無数にきらめく星を見た時の感動が蘇りました。その時は82年の秋で、ペガスス座の大四辺形の説明区や、ていましたが、これも、何度も聞いたら飽きなってしまいます。パワーキュージックは変わったのかどうかはよく分かりませんが、久しぶりの感動に満ちて、同時に上映は終ってしまいました。場外に出で、3階のバルコニーを見ていたのですが、カリオケ衛星や太陽風の説明も昔のままで、もう感動感動の1日でした。

これからも頑張ってプラネットリムを上映に欲しいです。また暇になら観に来ようと思います。



「はくぶつかん」スタッフから
「はくぶつかん」をもっとおもしろくて、楽しいものにするために、あなたのご意見、ご感想をぜひお聞かせ下さい。

(あて先) 平塚市浅間町12-41

0463(33)5111

平塚市博物館

「はくぶつかん」スタッフまで
どんどんお寄せくださるのを待っています!